

ネットワークセミナー010 「コレクティブハウジング世界大会報告！」 記録

- 日時：2010年11月3日（祝）15:00～18:00
- 場所：東京大学 駒場ファカルティハウス内 セミナー室
- スピーカー：影山、宮前、狩野

- セミナー内容：

●●● 世界大会の様子 ●●●

コレクティブハウジング社ネットワークセミナー、記念すべき第10回目の会場は「東大駒場ファカルティセンター」木漏れ日が美しい空間になんと100名を超える参加者が！世代も学生から年配の方まで様々で、コレクティブハウジングへの関心の高さが伺えました。

今回のセミナー前半では、コレクティブハウジングの世界大会報告がありました。開催国スウェーデンを中心に、北欧、北ヨーロッパ方面からの参加が多く、アジアでは日本、韓国、バングラデシュ。合計で21ヶ国160人が参加、プログラムは「各ハウスに分かれコモンミールへの参加」「ハウスを回るバスツアー」「講演」「分科会」「分科会結果発表」「まとめのセッション」等。また休憩時間が多めに取られ、各国の情報交換が積極的に行われたそうです。

国によるコレクティブハウスの形態の違いとして、国土が広いアメリカの場合はそれぞれ固有の家を持ち、その間に「コモンハウス」を持つことが多いですが、日本やヨーロッパでは集合住宅形式を取り「コモンスペース」を持っているとのこと。

またコレクティブハウジング発祥の地北欧でも、ベルギーとオランダではコレクティブハウジングの普及度合いが違い、それは土地や家を私有財産として認めているカトリックと、公的セクターが関わる率が高いプロテスタントの差ではないかとも言われています。結果、ベルギーでは10年かかかってようやく今年、初めてのコレクティブハウスができました。こういう意味では、民間主導でコレクティブハウスづくりを進め、すでにこれだけの実績を残しているというのは稀有なケースのようです。こういった国ごとの状況の差異、また共通項が見えてくるのも、国際会議ならではのですね。

●●● ツアー各ハウスの報告 ●●●

世界大会のプログラムにあった「コレクティブハウスツアー」その5つのハウスについての紹介は以下の通りです。

■ 1「フレスタバッケ」

子ども 15 名大人 35 名、合計 50 名。コモンミールは平日週五回夜に行われ、週末はファミリーデイとして確保。その頻度での開催が 21 年間続いているコツは、コモンミールチームの担当者がメニュー決めと調理者を分担していることではないか。コモンスペースには子ども用のプレイルームを広く確保。他にはランドリーや木工室など。

■ 2「トレポーター」

名前は「三つのドア」という意味、居住者の年齢層が若い。ハウスミーティングは月一回かもしくは隔月。主に多数決で決めていくのは、話し合いに時間をかけ過ぎるよりもその後のパーティー等インフォーマルなコミュニケーションを重視している為。ハウスの中で食材の共同購入ゾーンやリサイクルスペースは定期的なメンテナンスが行われており、集合住宅中心にあるランドリースペースの使用やコモンミールへの参加は居住者以外の地域の人へも開かれている。小さな子どもがとても多いので、騒いでもいいスペースと静かにするスペースの住み分けが行われている。

■ 3「フェルドクネッペン」

「人生の後半のためのコレクティブハウス」と表現されている。居住資格は 40 歳以上であり、居住者の平均年齢が 70 歳。子どもの面倒を見ることから開放される自由を認め、帰りたい家や役割があることで健康を維持する効果もある。居住者は、ここはシニアコレクティブでは無いことを強調し、あくまで人生の後半を人と係わり合いながら豊かに生きていく選択をしたという意識を持っている。設備には織物室や体操室、ライブラリー、美しい共用庭など。

■ 4「ソドラステーション」

元々は市営の賃貸住宅だったが、2010 年から住宅組合に売却され所有制となった。市場ルールの中に入ったことで居住者の顔ぶれがバラバラになる、家賃が上がるなどの状況が発生し、動揺が起こっている。半数が子どもと青年、幼稚園を併設。子どもは自分たちの意思でここに住んでいる訳では無いので共同生活を強制することはしないという方針。あくまで自立したのちに自分の意思でコミュニティへの参加を決定してもらい、役割と責任を与える。

■ 5「ショファアーテン」

築 2008 年「ハンマルビーショースタッド」というエネルギー効率の高い、エコロジカルな場所に作られた。フェルドクネッペンの居住者がコーディネートし（日本の CHC ように、住む方と事業主とその間にたつ第三者的なポジションは非常に珍しい）コーポラティブ賃

貸組合という制度を採用。居住者が資本金を出資して組合のメンバーとなり、毎月家賃を支払って運営している。

*ストックホルム市には、市が100%出資をして作ったいくつかの住宅供給会社があり、独立採算で運営され、それらが互いに競い合いながら発展を続けているそうです。

*東京都の一人暮らし世帯比率は2005年で42.5%、現在は既に半分くらいになっていると考えられる（実はスウェーデンも同じくらい）現在の日本社会で全体の三分の一と言われる非正規雇用者には職場コミュニティも無く、孤立する不安がある現状に、コレクティブハウスの必要性があるのかもしれないという話がありました。

●●● 世界大会での話題 ●●●

世界大会のワーキンググループで最も人気が高かったのは「夢から実際の入居へ～計画とかじ取りのプロセス」と「高齢者にとってのコレクティブハウジング」というテーマ。逆に参加希望者が少なかったのは「コレクティブハウジングにおけるこども、若者」他には「コモンミール～ともに住まう事の要」「コレクティブハウジングは性の平等に貢献するか」「シェアすることで節約する～持続可能なライフスタイルに向けて」「所有か賃貸か？法的形態と経済的要因」等があったそうです。

以下、メンバーが参加した分科会とそこでの内容報告です。

・分科会「コレクティブハウジングにおける自主運営」

→主に意思決定の行い方についての話題。全員が参加しての定例会は必ずしも毎月開催しているわけではなく、「ボード」と呼ばれる役員会のようなメンバーを決定し、日時の意思決定はそこで行われているケースが多い

・分科会「居住者募集の戦略」

→居住者側で選考をかけることは基本的にはしない、そのような暮らし方をしたい人を受け入れてコミュニティを作っていく。ただしコモンミールへの参加頻度や共有スペースの維持は課題。

・分科会「もめごとと解決方法」

→ハウスの事業者側は「いかにもめごとを減らすか」という事前予防策を考えるが、実際の生活者は「もめごとは必然、その場で話し合っ解決していくしかない」と言う。

*世界大会基調講演の中で、「コレクティブハウジングは、課題解決＝社会変革のための一つの指針」として表現されていることが印象的だったそうです。

●●●ワーキンググループ●●●

セミナー後半は、会場の参加者にそれぞれこちらが準備した15のテーマの中から、興味のあるものを選んで頂きグループに分かれてもらいました。ここではそのお話の内容を全てレポートすることはできませんが、その中から幾つかを抜粋させていただきます。

・分科会テーマ「まちづくりとハウジング」

⇒ 地域のみんが幸せに暮らすには？多世代で一緒に暮らすには？近隣とご近所のつながり、街の中のコミュニティが無くなってきている現状をどう解決する？街の中の全体でコレクティブハウスのようなものが出来ればいいのか。つまりコレクティブタウンの実現！

・分科会テーマ「一人暮らしとハウジング」

⇒一人暮らしでのリスクは、病気になると困る事、宅配便は休みとらないと受け取ることができない事、ペットの世話をちょっと頼める人がいない事、食事が寂しい、一人分の料理が大変、家事を分担できない等。ただ、時間や空間的な拘束がないのはメリット。

・分科会テーマ「シェア型住居における入居者募集」

⇒ ただのシェアハウスとコレクティブハウスの違いって何だろう？まだシェアな暮らしへの理解は低い、今後は単に「安いから」という価値だけではなくてくる気がする。また「暮らしのどこまでをシェアをするか」という段階も多様化している。

・分科会テーマ「分譲と賃貸、その他の形態」

⇒ 分譲でのコレクティブな暮らしは 共用部分が少なくなり、個人負担が大きくなるので難しいのでは。一方、一括借上げの場合、空きのリスクは組合員にかかってくるのだろうか？

・分科会テーマ「働き方とハウジング」

⇒シェアオフィスが普及していくと、企業内デザイナーと個人事業主がプロジェクトを共有できる等のメリットがある、また、関係者と食事を共にすることで仕事と人生が近づいていくのでは。

・分科会テーマ「高齢者とハウジング」

⇒ 70～80代になっても自立／協働できるだろうか、認知や精神疾患を運営側でどの程度判断して対応していけるだろうか。居住者の人間関係をある程度以上積み重ねていないと難しいのでは。

・分科会テーマ「ハウジングの資金調達」

⇒ ローン、信託、補助金、予約共同購入、寄付、仕事で稼ぐ、イベントなど。コレクティブは余剰を生み出すことが出来るので、フィーを必要資金にあてることのできるのでは。

・分科会テーマ「ハウジング、パブリックセクターとの協働」

⇒ コレクティブとシェアの違いは「沢山の関係者との話し合い」行政ともそれを行う。URで既に動いているところも、但し「空いているから有効に使ってください」では無責任。

・分科会テーマ「東京の家賃を半分にするには？」

⇒ 土地が高い、空室が多いにも関わらず値段が下がらない、そもそも家賃の相場ってなんだろう？納得感が少ない。需要と供給のバランスがとれていないのでは。不動産の相続を守って土地の価格を安定させる為の施策を。

●●● 終わりに（感想） ●●●

報告会の内容で面白いと感じたのは、北欧の先進的な取り組みというよりも、世界の中でも共通する課題や、多様な人が暮らすからこそその関係性のつくり方の話でした。特に「すれ違いは起こるもの、それを隠すのではなくきちんと場に問題提起できることが重要」という考え方は、単にコレクティブハウスにとどまらない、社会の中でどれだけ他者と関わりながら生きていくかというテーマへの、考え方の本質に触れていたように感じました。また、今回は終了後の懇親会にも多くの方が参加して下さいましたが、その中のお一人の方が聞かせて下さった「自分の言いたいことを上手く説明できる＝意見を理屈で通すことができることが、必ずしもコミュニケーション力が高いという意味ではなく、言葉にならない相手の想いをどれだけ想像して関わっていくことができるかが、本当のコミュニケーション力だと思います」というお話も、とても心に響くものでした。

今回、沢山の方が思い思いに語っていただいたワークショップ、そのお話の一つ一つを、私たち CHC と参加者のまささんが、またみなさん同士が、しっかりと受け止め合い高め合って、暮らしの新しい可能性、探っていけたらと思います。

以上